



WAKODOHOUSE

一般社団法人 SAVE TAKATA 若者事業「若興人の家」

活動報告書

2013-14

Wakodo-house is the
project of house
renovation &
increasing the exchanging
population.



CONTENTS

4	事業説明	23	参加までの流れ
5	2013-2014年度のお礼とご報告	24	広報
6	プロジェクトの歴史	25	デザイン
7		26	参加イベント
8		27	
9	年表	28	いわて若者文化祭 出展
10		29	
11		30	奥尻島 視察
12		31	
13	家づくりのプロセス	32	今までの思い
14		33	今後の展望
15		34	PMメンバー紹介
16		35	
17	家づくり班	36	参加メンバー
18		37	収支計算書
19		38	メディア掲載
20		39	若興人の家を 支えてくださった皆さま
21	発見・発信班		
22			

たかたアラルト



陸前高田市米崎町名産、蜜たっぶりの米崎りんご



嵩上げのための土を運ぶ巨大なベルトコンベア



陸前高田市のシンボル、奇跡の一本松



陸前高田市の伝統、動く七夕祭り



2013 - 2014 年度のお礼とご報告

一般社団法人 SAVE TAKATA 代表理事 佐々木 信秋

若興人の家の活動の源流は、当初学生 (= 若者) にどうやったら陸前高田に定期的にきてもらえるのか? という疑問を学生自身に投げかけたことから始まった活動です。様々なご縁をいただき、借りることになった平屋住宅を、学生に共有したところ「改修しましょう!」「みんなが集えるような場所にしよう!」「家具とかも自分で創れたら楽しいよね!」と、本当に目を輝かせながら話していたのが3年前、つい昨日のように思い出します。これまでの活動は小さなことから大きなことまで日々課題との戦いでした。そのなかで学生の自主性や自発性を損なわず、どうやったらうまくサポートできるのか・・・試行錯誤を繰り返す日々でした。その日々のなかで多くみなさまに支えられ、そして情熱を持った学生と巡り会うことが出来、これまで活動を進めさせていただきました。厚く感謝を申し上げます。今後とも若興人の家の活動を、何卒、よろしくお願いいたします。



第1期 学生リーダー 久保 玲奈

ほぼゼロからつくりあげてきた若興人の家事業を、やっとまとめることができました。この1年半~2年間は「下積み」期間であり、また1ヶ月に数日しか陸前高田で活動することができなかったため、市民の皆さまには成果が見えづかったと思います。

しかしこの下積み期間は、多くの方々のご協力があったからこそでした。この1年半をじっくり振り返ってみると、本当に様々な活動を行うことができたことと感慨深くなります。

活動に参加してくださった約75名の高校生・大学生の皆さんは、活動目的を理解するのが難しかったと思います。しかし、生き活きと活動する皆さんの姿が「若興人の家に参加したい!」と思う人を増やすことに繋がりました。最初は中心となる学生メンバーが2名しかおらず、やるべき活動をすぐに実行できない期間もありましたが、現在では12名の頼もしい学生メンバーが、事業のこれからを真剣に考えています。学生メンバーそれぞれのやる気・能力を発揮できるように努めた結果、1人1人がかけがえのない大切な仲間になりました。参加者と学生メンバーに恵まれ、感謝ばかりです。



第1期 家づくりチームリーダー 田中 匠

私が本活動に参加して、約1年が経過しました。

私が初めて本活動に参加したときは、家の形はしているものの、床は剥がれ、柱は痛み、開口部はガタガタで、何をどうすればいいか先が見えない状況でした。しかし、活動に参加してくださった学生の方々、SAVE TAKATAのスタッフ、現地の大工さんの協力があり、現在では人を呼んでも恥ずかしくない状態にまで変化を遂げました。今でも、若興人の家へ行き、貼られている床を見ると当時の感動を思い出している自分がいます。

私は活動を通して、仲間とものを作ることの喜び、楽しさに気が付くことができました。この気持ちは、我々運営側だけで感じていてはもったいないものです。今後はものを造る、という活動を通して色々な方々と繋がることで、陸前高田を盛り上げて行きたいと考えています。



デザイン・マネジメント 鈴木 紀明

「自分のスキルを活かし、復興の役に立ちたい」そう胸に刻みながら活動を続けた1年半でした。短いようでいて、中身が濃く長かった道のり。「この素晴らしい陸前高田で何かできることはないか?」と思い、様々なことに挑戦しました。家づくり班の一員としてのタスクをこなすとともに、デザイナーとしてイベント出展のためのパネルやリーフレット、メンバーのネームプレートや名刺など、数えきれないくらいの成果物を残すことができました。若興人の家に興味をもち、成果物を見た人が感動してくれたときの喜びは忘れられません。そして自分のスキルやセンスが相手に良い影響を与えていると直接感じられることに、いままでないやりがいを感じました。応援頂いた皆様に多大なる感謝を申し上げます。



若興人の家 事業説明

岩手県陸前高田市の震災前からの地域課題である「若者流出」に対処しようと、一般社団法人 SAVE TAKATA[※]では若者事業を行っています。私たち大学生はその一環として「若興人の家」を運営しています。陸前高田を訪れる学生の活動拠点となることを目指して古民家をリノベーションしよう、というところから始まりました。

主な活動は2つ。1つは、地域の人と繋がるための「家づくり」。若興人の家を「変わり続ける家」として、これからもずっとつくり続けていきます。家自体はもちろん、そこに関わる人・訪れる人、また陸前高田のまちもこれから変わり続けていくという想いを込めて。もう1つは陸前高田の魅力の「発見・発信」。私たち自身もまだ知らない陸前高田の魅力を発見し、それを全国に発信することが目標です。これらの活動のゴールは、「交流人口(その地域を訪れる、または交流する人)の増加」。今後は交流イベントなども行う予定です。

私たちと一緒に事業について考え、計画して形にしていく「プロジェクトマネジメントメンバー (PMメンバー)」として、また、現地での活動のみに参加する「参加メンバー」としてなど、関わり方は様々ですが、皆、「陸前高田を知りたい!」「陸前高田が好き!」そんな共通の想いをもって活動しています。



※一般社団法人 SAVE TAKATA は、挑戦の地「陸前高田」で、日本の未来を創る地域づくりを目指す、という理念の元、農業、IT事業、若者事業の3事業を軸に「米罇りんごの7次化(6次化+担い手づくり)」「ITによる人材育成」「若者の場づくりと情報発信による若者流入」を実施、過疎化地域の課題解決と、その先にある日本の未来づくりを進めています。

《各事業紹介》

●家づくり

「地域の人と繋がるための家づくり」

若興人の家を訪れば、陸前高田の人とつながることができる!とってもらえるような家にしたいです。

訪れる人、作る人、家そのもの、そして街の様子。全てが「変わり続ける」家になることを目指します。

若興人の家はこれまでの施工で、床と壁がほぼ完成しています。今後は手つかずの部屋をミーティングルームとすることも含め、家としての基本的な設備を整えます。その後はより魅力的な空間づくりを行っていく予定です。自分の作りたいものが作れる、アイデアが反映される、そんな魅力的な活動です。

●発見・発信

「会いたい”ひと”にあいにいこう」

陸前高田の魅力は全て、そこに住む人がいてこそ。

食べ物だって、街だって、人がいなければ成り立たない、という想いがこもっています。

会いたい”ひと”は、人間だけでなく、陸前高田の魅力すべてを表しています。

陸前高田での活動の度ごとに市内の街歩きと一次産業に携わる方へのヒアリングを行っています。

地域の方々との交流を深めるとともに、私たちが新たな陸前高田の魅力を発見するきっかけになっています。

活動の成果をまとめた「わこうどうしん」も毎月発行しています。



プロジェクトの歴史

「若興人の家」とは、陸前高田を訪れる学生の活動拠点となることを目指し、学生によってリノベーションされている古民家のことです。ここでは、なぜこのような事業が生まれたのか、どのようにして現在のような姿になったのかを見ていきたいと思います。

この「家」は震災から1年2ヶ月後の2012年5月、当時SAVE TAKATA代表の住居としてSAVE TAKATA代表の父の知人から借りました。

しかし4ヶ月後、その方が使用することをしなくなり、「家」は再び空き家になってしまいました。SAVE TAKATAでは、せっかくなので貸していただいた「家」をどのように利用するか考えあぐねていました。そんなとき、イベントに来ていた学生から「ゲストハウスにしてはどうか」という意見をもらいました。どのようなゲストハウスにしようかと、ニーズを考えていると、当時陸前高田にボランティアなどで訪れる学生の拠点がないという問題に行き着きました。そこで、学生向けのゲストハウスを作ろうという話になりました。

また、陸前高田は震災前から地域課題として「若者流出」「高齢化」が切実でした。震災で若者の犠牲者が多かったことや、震

災後の若者流出によって、陸前高田の過疎化と高齢化はおよそ20年分進んでしまったとも言われています。しかし日本全体の人口が減っているため、陸前高田をとってみても総人口が減ることは避けられません。そこで、SAVE TAKATAでは「若者」に注目し、総人口に占める若者の割合を大きくすることで地域課題の改善に取り組むことにしました。こうした様々な流れの中で若者流入が事業として立案されました。そしてこの事業のゴールは、「若者移住者の創出」。この実現のためには、まず学生のニーズを知ることが必要だということから、当事者である学生と共に事業を行って、学生の生の声を肌で感じながら若者のニーズを知ろうと考え、学生と共に運営を行うことにしました。



とした活動ですが、この活動に関しては、ある程度まちあるきをしてからでないと思えないという判断で先延ばしにされていました。

2014年10月には、前回のミーティング以降に新たに加わったメンバーがいることや、実際にミーティング以降の活動を通じて気づいたところがあるということなどから、もう一度SAVE TAKATAとのミーティングを実施しました。そこでは、「学生の私たちが自分たちがやることには何か」という視点から自分たちの活動について今一度考え、結果として私たちは陸前高田に若者を呼び込み交流すること、つまり「交流人口の増加」が使命なのではないかということでもまりました。それに伴って、これまで3つに分かれていた柱を、「家」への「発見・発信」の3つに絞ることにしました。これまでは準備段階であった自分たちの活動ですが、軸が明確になり、ここでようやく基盤ができたように思います。

このように、何度も話し合いを重ね、試行錯誤を繰り返しながらですが、自分たちで計画・実行し、何よりも「みんなが楽しむ」ということ、それが私たちの活動の最大の魅力なのです。学生ならではの、活気あるにぎやかな活動の輪をこれからも広げていきます。

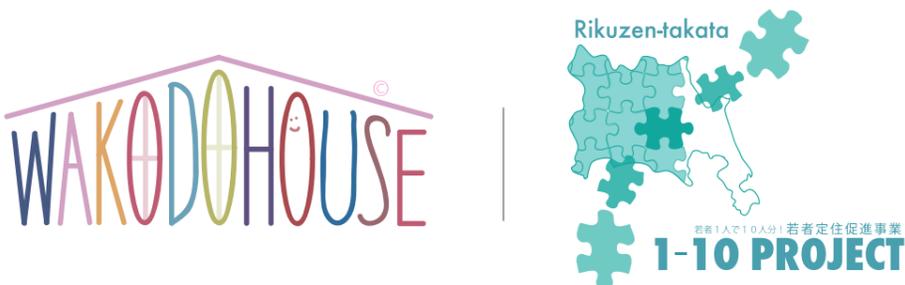


このような中で、自分たちの活動の柱を見直そうという流れから、2014年6月には、若興人の家の運営メンバーによる全体ミーティングが開かれることになりました。ここでは、事業の柱をそれまでの「1つ・2つ・3つ」は「なす」「から」「拠点」へ「まちあるき・交流事業」に変更しました。若者定住者の創出のためのステップとして、まずは来てもらう、次に継続的に来てもらう、そして定住してもらう、ということが必要だと考え、この段階では最初のステップである、「まずは来てもらう」「ためごと」にするかということから、「この3つの事業の柱になりました。このうち「拠点づくり」では文字の通り、自分たちを含め外部から陸前高田を訪れた学生の拠点である「若興人の家」を作ることが目的でした。「まちあるき」では、陸前高田を訪れる学生に陸前高田の魅力を伝えるには、まずは自分たちが陸前高田を知るべきであるという発想のもと、外部の人間だからこそ発見できる陸前高田の魅力の発見を目的にまちあるきを行いました。「交流事業」は、まちあるきで得た情報を、さまざまなお客との交流を通してたくさんの人に広めることを目的

トヨタ財団様と住友商事様から助成を受け、学生が本格的に関わり始めたのは2013年4月のことです。このとき参加していた学生たちは、2013年4月〜2013年10月までの間に、陸前高田の調査訪問、ミーティング、若興人の家の設計図案、模型、ホームページなどを作りました。床を剥がして地質調査をするところまでを行いました。

そして彼らの活動を引き継ぐかたちで、2013年10月には新たなメンバーとして継続に関わる学生が数名、その他陸前高田での活動のみに参加する学生なども合わせて、3大学から毎回5〜7人が参加し、施工が本格的にスタートしました。以降5回ほどの現地活動を重ね、現地の大工さんに手伝っていただきながら床の貼り換えなどを行いました。

2014年4月、施工がひと段落したことや、新しい年度の始まりということから、SAVE TAKATAと学生でミーティングが開かれました。事業の再確認が行われ、SAVE TAKATAと学生との間での方向性のすり合わせが行われて、新たなスタートとなりました。SAVE TAKATAとして正式に位置づけました。この頃までには、若者事業を3つの事業のうちの1つとして正式に位置づけました。この頃までには、東京都市大学、早稲田大学の学生が運営メンバーとして継続的に活動に関わるようになっていました。



年表

参加人数

活動内容



企画時期
(第0期)

SAVE TAKATA職員の仕事として空き家を譲り受ける

旧地域支援団体ARCHを中心とし、SAVE TAKATAと共同プロジェクトとして若者たちが陸前高田において活動する拠点づくりのコミュニティスペースを企画する

若興人の家視察、地域調査
SAVE TAKATA・旧地域支援団体ARCH・千葉大学の建築学生が参画

再企画時期
(第1期)

東京ミーティング初開催（若興人の家方針決定、スケジュール作成）
SAVE TAKATA職員・伊藤が現地スタッフとして参画

今まで参画していたメンバーの殆どが活動から離れる
若者事業の為に助成金の採択を受ける
旧地域支援団体ARCH代表が学生リーダーとなる

SAVE TAKATA・第0期学生リーダーと共に企画を協議する（第1弾）
SAVE TAKATA伊藤がプロジェクトリーダーとなる

若興人の家のBefore模型完成

新メンバーとして東京ミーティングに東京都市大学建築学科生が参画
第1期 掃除、トイレ構想、一部解体（改修工事開始）（9月5～6日）
第2期 工具調達、一基礎工事（9月26～27日）

第3期 基礎工事、トイレ工事（10月27～28日）
東京ミーティングで本格的な設計が始まる

第4期 基礎工事、トイレ工事

第5期 基礎工事、駐車場整備





再企画時期
(第2期)

第6期 割ぐり地業、床材解体、U字溝整備(2月12~14日)
 第7期 雨樋掃除、駐車場横階段設置(2月19日)
 第8期 床材解体、壁一部解体、地盤ならし(2月24~27日)

第9期 気仙大工さんの手伝い(床材設置)、壁一部解体(3月3~4日)
 第10期 床完成、壁材設置、床・壁一部解体(3月26~28日)

2014年度 若興人の家広報戦略会議
 第11期 購入家具の組み立て、家の大掃除(4月19~20日)
 SAVE TAKATA・第1期 学生リーダーが共に企画を協議する(第2弾)

第12期 陸前高田市内まちあるき(5月24~25日)

SAVE TAKATA・PMメンバーが共に企画を協議する(第3弾)(6月3日)
 学生コアメンバーのみで企画再構築について協議(6月1日)
 事業の柱を「拠点づくり」「まちあるき」「交流事業」に変更する
 第13期 廃材撤去、花壇作り、農業体験、地元行事の手伝い(6月21~22日)

第14期 地域行事「うぐく七夕祭り」ボランティア参加(8月7日)
 第15期 SAVE TAKATA制作「復幸マップ」配架作業(8月27~29日)

奥尻島防災視察(9月5~7日)
 若興人の家ロゴ完成

ホームページリリース、リーフレット完成(11月14日)
 いわて若者文化祭出展(11月15~16日)
 第16期 まちあるきイベント参加、看板制作、外壁塗装(10月4~5日)
 地域の方々との初交流会(カレパティー)(10月4日)
 SAVE TAKATA・PMメンバーが共に企画を協議する(第4弾)(10月22日)
 日本エコツーリズム協会学生シンポジウム出展(11月29日)

NPOと企業とのパートナーシップ 第3回東京交流会の手伝い(12月~11日)
 第18期 カテン取付け、花壇、初 自主企画まちあるき(12月20~21日)
 復興・復旧経験地域視察研修会 発表(12月20日)

Switch vol.4 東北にコミュニティの場をつくった都市大生 講演(1月8日)
 第19期 ローター制作、トイレ内壁設置(1月10~11日)

合宿：活動報告書、企画書、若興人の家利用マニュアル作成など(2月14~16日)
 わごごつうしん1号完成
 第20期 作業台作成、ミーティングルーム採寸、復幸マップについての会議(2月21~22日)

わごごつうしん2号完成
 2013~2014年度 活動報告書作成



2013年9月
(第1期)



床や窓の拭き掃除、
あちこちに刺さっている
要らない釘抜き

2013年9月
(第2期)



約6cm下がっている
家中心部の基礎まわり補強



傾きが無くなる

2013年10月
(第3期)



機能していなかった
トイレの壁と床の解体



便器設置準備のために
トイレの床貼り

2013年11月
(第4期)



立派な便器が設置され、
活動しやすい環境に

2013年12月
(第5期)



建築家からご指示を
いただきながら割栗地業



半分のスペースの
割栗地業が終了

2014年2月
(第6期)



隠れていたU字溝の発掘



モルタルを作って
壊れたU字溝を修復

2014年2月
(第7期)



家の横のぬかるんだ
道に階段を設置

2014年2月
(第8期)



今にも壊れそうな
柱周辺の壁解体



大工さんと呼ぶ体制が整う

2014年3月
(第9期)



初めて使う大型工具に
みんな大興奮



地元の気仙大工さんが
床をつくってくださる



2014年4月
(第11期)

2014年3月
(第10期)



若興人の家で初めてのお茶っこ



最低限の家具は
キットで作成



最低限の床と壁が
やっと完成



大掃除をし、待ちに待った
新しい床との対面



あっという間に天井
まで仕上がった



床に続いて、壁着手



約1ヶ月間で地元の
気仙大工さんが床材を
全て貼ってくださった

2014年11月
(第17期)

2014年10月
(第16期)

2014年6月
(第13期)



大好きなロゴを壁に
ペイントし、若興人の家の
象徴的な場所に



若興人の家の顔と
なる看板制作



古びた色の壁を
元気な赤系に上塗り



少し活動しない間に
雑草がたくさん



2日間かけて作業して
スッキリとした
玄関廻りになった



大きい廃材は切断



改修で発生した大量の
廃材撤去作業

2015年2月
(第20期)

2015年1月
(第19期)

2014年12月
(第18期)



皆の大好きなロゴが
入った時計の設置



調理台の制作



交流会で使うテーブル制作



断熱材が丸見えだった
トイレの内壁に
やっと木版を取付けた



冷気が入っていた
大きな窓にカーテンを設置



花壇の定期整備



女の子たちだけで壁の解体



家づくり班

〜変わり続ける家〜

「若興人の家を訪れば、陸前高田の人と繋がることができる！」

訪れる人、つくる人、家そのもの、そして街の様子、全てが変わり続ける…そんな家を目指しています。そのために、半年ごとに目標を立て、その為に必要な作業内容、作業時間、必要人数、知識の有無をハードとソフトで分けてリストアップしています（図参照）。そして、毎回の活動で参加する人数に合わせて作業内容を選びます。

現場では、工具の使い方を知っている学生が新規参加者に教えながら作業したり、学生だけでは施工できないところを地元の大工さんにご協力いただいたりしています。月に1度の活動のため進捗が見えづらいますが、毎回緻密なスケジュールを組んで現場へ向かい、予期せぬ作業が発生したら、無理せず出来るところまで進めます。

テーマの通り、この家の完成はありません。その時に関わる学生や、陸前高田市民の方々の要望に合わせて、作業内容を決めていきます。自分の作りたいものが作れる、アイデアが反映される、ワクワクできるのが家づくり班です。

作業内容	作業時間	必要人数	知識の有無
〔ハード〕			
トイレ内壁	1日	2	○
脱衣所の壁壊し	(大工さん)		
畳部屋の壁壊し	2日	3	
畳部屋の床貼り	2日	2~4	
外壁塗装	1日	2	
押入の床割がす、板貼る	0.5日	2	
〔ソフト〕			
浴室整頓	0.5日	2	
花壇	1日	2	○
曇つくり	(2月)		
小看板ニス	1H×2	1	
外壁マステ剥がし	(空き時間)	3	
色紙釘付け直し	1H	1	○
ロールカーテン取付け	1H	2	○
工具移動	2H	2~3	○
キッチン裏掃除	1H	2	○
家具づくり	(東京 WS)		
時計づくり	2月活動まで	1	
クッション買入	12月活動まで	1	

〜設計までの長い道のり〜

2013年4月〜2013年10月に参加していた学生たちは、陸前高田市の調査訪問、ミーティング開催、若興人の家の設計図案・模型・ホームページ作成などを行いました。また、床を剥がして地質調査するところまで活動し一区切りしました。

「2014年3月までに、最低限利用できる『場所』をつくる」という目標だけが決まっている状態で、新たなメンバーが2013年10月から設計（レイアウト決め）をするようになりました。古民家の改修工事に興味を持った首



ングを行い、「土間の広さ」「土間をつくるのに適した地域・気候」「土間のその他の利用方法」など様々な検討をしていく中で、若興人の家の立地や面積に適していないという結論に至り、代わりに掘りこたつを制作し、若興人の家のメインスペースとすることにしました。

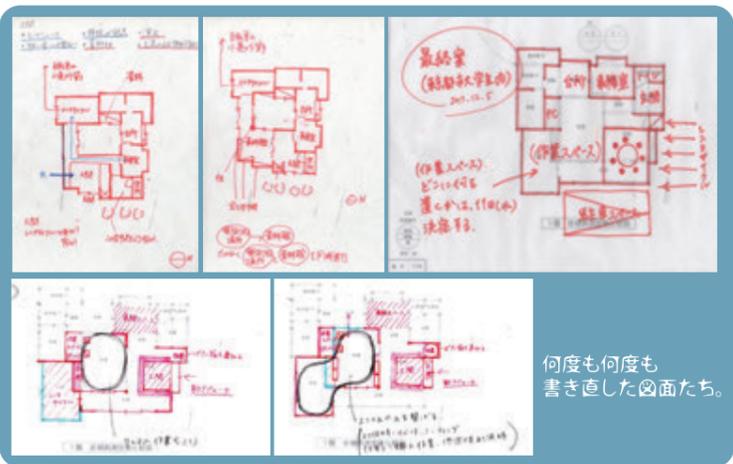
もひとつの大きな検討事項は、陸前高田市内を見学するためのレンタサイクルを保管するスペースでした。希望は4台でしたが、若興人の家には庭がない上に隣地が近く、保管できるスペースがありません。折りたたみ式自転車を購入するか、家の壁にかけるかで議論が続きました。折りたたみ式だと室内におけたり施錠し

都圏の大学生（建築学科）4〜6名で設計を進めようとしたが、現場を訪れたことのある学生は1人しかおらず、立地や空間の把握が難しかったため、ストリートビューを見たり、古民家の中の写真を見たりして、現場イメージを膨らませることからの始まりでした。



たりが容易であり、また壁掛け式だと見た目が良く面積削減に繋がるなど、どちらもメリットがありました。木造の壁に4台の自転車を掛けるのは構造的に危険であるという判断から、折りたたみ式自転車に決定しました。

「自分たちがやりたいことをどんどん提案してほしい」「学校で勉強したものを活かせる経験をし、実績を積んでほしい」というSAVE TAKATAからの想いのもと、コンセプト設定→機能決め→設計までで約1ヶ月半を要しました。



何度も何度も書き直した図面たち。



「コンセプトと機能が決まると、ようやく設計にうつることができます。」

「若興人の家のアプローチとして土間をつくり、地域住民を呼んで陸前高田の歴史・文化を聞く場所にしたい」「改修工事を進めるときの作業スペースや資材置場としても土間を使いたい」という、若興人の家立ち上げから関わっている方の意見があり、学生もそれに賛同して設計を積み重ねました。4〜5日に1度ミーティ

〜案を持寄り、意見交換…の繰返し〜

「コンセプト決定後は、他地域から訪れる若者にとってどんな機能があれば魅力を感じる場所になるか、という話し合いになり、「レンタサイクルで陸前高田市内を見学できれば、車を借りる費用が浮くし、少し遠い移動も楽にできる」という意見や、「充電できる」「ドリンクサーバーがある」「夜行バスまでの待ち時間を快適な場所で過ごせる」など様々な挙がありました。

この時点で関わっていたのは皆建築学科生であり、今まで机上の学問だったものが実際の形となることへの期待感や不安感が入り交った期間でした。「建物を通じてつくる町に興味がある」「模型以上のものを自分の手でつくる」ことができるのが楽しみ「実際の建物の設計を自分ですることで建築に対する気持ちを養いたい」など、関わる目的は皆な様々でしたが、そのぶん毎回のミーティングでの意見交換は充実したものであり、若興人の家のいいスタートがされたのは、この地道な期間があったからです。

～シエアライブラリの連携～

事業開始当初、若興人の家は「つくる」の「つ」は必ず「3本柱」の活動することになった。この「つ」は、「つくる」では、陸前高田の歴史文化、震災について若者達が知るため、全国から陸前高田に関わる資料を集め、保管し、何時でも若者が閲覧できるように環境を構築することを目的とした。シエアライブラリを検討していました。

「コンセプトである「他地域から陸前高田にくる若者の作業場として事務・作業場に特化した家」は、このシエアライブラリを元としたものでもあり、機能決め↓設計を進めるにあたり、シエアライブラリの存在がどうあるべきか話合われました。アプローチを広くしシエアライブラリを見せることで、中々何をしているか、どんな人がいるのかも分かり、外へのアピールに繋がる、という結論で落ち着きました。また、大きい本棚を作るのではなく、可動できるサイズの本棚をいくつか作ることで、複数団体が訪問したときの仕切りに使えたり、壁に寄せて聞

～事故がないように～

大規模な施工を行っていた半年間は、床と壁の解体がメインでした。長くて重いボールを木材同士の隙間に入れ、げんうで思いっきり叩く…、場合によっては電動ノコギリで木材を切断するといった、初めて扱う工具で怪我をしないように、工具使用経験者（または施工法を調べた人）が、使い方、気をつけること、作業のお手本などを最初に教えてから本格的な作業にうつりました。解体には大量の釘が出てくるので、それが落ちていないかの点検も、学生監督が行っていました。参加人数が10名以上いるときは、SAVE TALKATAの担当者も監督として点検してくださいました。



毎月の活動ごとに参加する学生が異なるので、毎回教える時間を作らなければなりませんでしたが、作業を終える頃には、教えた学生よりも手際が良くなっているのが印象的でした。また、解体では木屑や土が舞うため、マスクをしていてもくしゃみが止まらなかつたり、作業後に鼻をかむと鼻水に木屑や土らしきものが混ざっていたりして、驚きつつそれを楽しんでいく学生も多くなりました。

仕切りのない広い面積で作業したりする案も出ました。土間やレンタサイクルなどのハード設計だけでなく、ソフト設計も同時に行なうことは、学生にとって至難でしたが、皆の力を合わせて少しずつ進めていきました。



～つくる、拠点つくり、家つくり～

現在の若興人の家は「家つくり班」と「発信班」の2つに分かれて活動していますが、「家つくり班」の最初は「つくる」でした。事業開始当初、陸前高田には若者が活動できる場所（宿泊含み）がなく、電気、水道、ガス、インターネット、事務作業環境などを完備した活動機能の提供と、中長期にわたって活動できるよう宿泊機能も提供することを目標としていました（※火災保険の関係上、宿泊できなくなりました）。また、活動拠点として利用する築60年の住宅を、若者達自身が改修し続けることよって、陸前高田に関わるきっかけをつくること、そして関わり続けることも目指していました。

2013年度～2014年度は大きな怪我がなく活動することができました。どんな作業でも100%の安全は確保できないので、これから活動を続けていく学生たちも意識高く取り組むように引継いでいきます。

～専門家の協力～

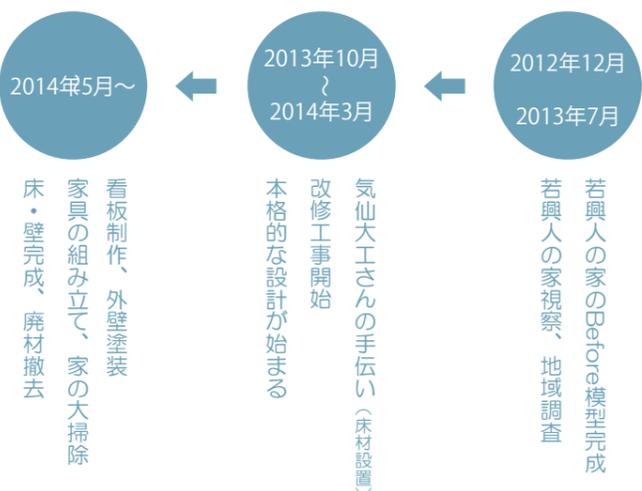
一級建築士さんには地盤調査、基礎作りのアドバイスにご協力いただきました。関東圏にお住まいのため、現場を訪れることは少なかったですが、メールを通じて迅速かつ的確なご指示をくださったり、東京ミーティングにご足労いただき今後の作業で不安な点を親身に聞いてくださったり、たくさん助けていただきました。

気仙大工さんには、「学生が手伝つ」ということで床と壁の設置を行なっていただきましたが、作業が早すぎて学生にはついていけず、学生だけでできる他の作業を進めながら、呼ばれたら手伝つ、という形で進めることになりました。その期間は1ヶ月に2回、3～4泊（通常より月5日間ほど多い）で学生は現場を訪れましたが、それだけでは間に合わず、大工さん1人で床と壁の設置を完成してくださいました。この期間は建築学科生の他にも大工科の学生もいたため、一級建築士さんや気仙大工さんと共に作業をしたり、作業の見学をしたりできたことが貴重でした。

◆家つくり班の目標◆

- 2014年11月 「デザインが必要な作業を終わらせる」
- 2015年3月 「家としての機能を最低限整える」

約1年後の2014年4月、若興人の家の大規模な施工が終了し、これからは「活動拠点」としての機能をつくっていくかなければならぬ、という新しい目標ができました。「つくる」「つくる」という表現だと漠然としていて分かりづらいつつ声もあり、「拠点つくり」と改めました。更に半年後の2014年10月、「拠点つくり」が「家つくり」に変更しました。これは、第三者の視点として『家』をつくるのほうがいいのではないか、という意見からです。「家をつくれるの?」「という興味から、若興人の家の活動参加へ繋がるのではないかと考えました。



一級建築士 山中保博さまから
地域のかげがえのない自然、歴史、文化、コミュニティを尊重した活動を期待しております。



家づくり参加者 西原波月さんから
参加理由は改修工事に興味があったからです。実際に行って作業した事で自分にとってプラスになり、4月から大工として働く気持ちも強くなりました！また、陸前高田市の現状を知りました。テレビで見ただけの軽い気持ちで行ったことが恥ずかしかったです。美味しいものも、あったかい人もたくさん陸前高田市にまた行きたいと思いました。



発見・発信班

「なんていつも陸前高田に来てくれるの、陸前高田は何もないところじゃないよ。」
 陸前高田に通うようになってから、何度も現地の方に聞かれたことです。そのたびに私はなぜだろう、と思っていました。陸前高田には素敵なところがいっぱいあるのに、それを現地の方は気づいていないし、全国の人に伝わっていないことを、とても残念に思っていました。

若興人の家PMメンバーはそれぞれ陸前高田の魅力に惹かれて何度も陸前高田に足を運んでいます。ある人は人に惹かれて、ある人は胃袋をつかまれて、またある人は自然に魅せられて…。こんなにたくさんの方の魅力で溢れる陸前高田をみんなに知ってほしい！
 全国に発信したい！そのような想いで「発見・発信」事業は始まりました。キャッチコピーは「会いたい」「ひと」にあいこう。「陸前高田の魅力は「人」「食へ物」「自然」など様々ありますが、そ



れらはすべて人がいなければできていないものです。人がいるからこそ、今の陸前高田が形作られています。この「ひと」には、単に「人」という意味だけではなく、それらすべての意味が詰められています。
 陸前高田の魅力をもっともっと発信するために私たちは「街歩き」「産業ヒアリング」「交流会」の三つを軸に活動しています。

街歩きで魅力を再発見

「街歩き」では、毎回陸前高田をよく知る方にガイドしてもらいながら、街歩きをし、今までは知らなかった新たな魅力を発見しています。
 2014年10月に、まちづくりプラットフォーム△様の街歩きイベントに参加させていただきました。街歩きの仕方や、成果物への落とし込み方を学びました。それを基にして、自分たちで、毎回一緒に街歩きをしていただきたい方々にアポを取り、街歩きを進めていくことにしました。
 2014年12月、地元の高校生と街歩きした際には、奇跡の一本松からタビックをまわりながら、高校生達の陸前高田の風景や震災遺構についての考えを知ることができました。高校生な



がら、しっかりとした意見をそれぞれが持っており、ハッとさせられる場面も数多くありました。
 2015年2月、認定特定非営利活動法人桜ライン311の理事の方と街歩きをしました。桜ライン311様は陸前高田市内約170kmに渡る津波の到達ラインに10mおきに桜を植樹し、ラインにそった桜並木を作ることで、後世の人々に津波の恐れがあるときにはその並木より上に避難するよ

陸前高田に関わる人と交流

若興人の家に様々な人を招いて、ごはんを一緒に食べながら、陸前高田に住んでいる方、移住してきた方、活動している方たちから見た陸前高田を知る機会を設けています。



いろんな人が若興人の家に集まって、わいわい盛り上がる、そんな光景をずっと思い描いてきました。それが初めて実現したのが2014年10月のことです。学生、市役所、NPOなど、陸前高田に様々な形で関わる人が約20名集まって、カレーパーティーを開催しました。長い時間かけて作り続けてきた、思いがたたくさん詰まった家に、これだけの人が集まってくれて熱く語り合う、この光景だけのお腹いっぱいメンバーにとって忘れられない瞬間です。その後も、毎活動で必ず交流会を実施し、本当に様々な方から陸前高田を知る機会をいただいています。魅力や想い、ニーズを聞くことで、私たちの活動を見直すことができますし、それと同時に、みんなが集まれる場所としての若興人の家が機能してきている感触があり、とても嬉しく思っています。

う伝承していくことを活動としています。その桜の植樹地や、津波被害の教訓が刻まれている石碑などを見てまわりました。陸前高田の思い出のものもたくさん教えてもらい、まさに新たな魅力を発見する活動になりました。



街歩きのまとめは、新規参加者さんと一緒にゼロから作成します。

「おいしい」の秘密に迫る

「産業ヒアリング」では、一次産業従事者の方を中心に、陸前高田の「おいしい」をつくる方達に歴史や他地域との違い、おいしいの秘密についてヒアリングをしています。また、ヒアリングさせていただいた農家さんに、次の方を紹介してもらうようにしており、どんどん「おいしい」の輪が広がっていくイメージで活動しています。これまで、いろんな農家さん、園芸農



家さん、牡蠣漁師さんなどにお話を聞かせていただきました。
 記念すべき一回目はりんご。収穫作業をお手伝いさせてもらいながらのヒアリングとなりました。途中で、太陽の恵みをたっぷり浴びたりんごをおすそ分けしていただき、丸かじりした時には、おいしくて自然と笑顔が溢れました。しかし、ヒアリングの中では少しショックなお話もありました。形のよくないりんごは、農協に出しても結局検査料がかかるだけで、撥ねられてしまうので、廃棄するほうが多いのだそうです。ある程度は加工品として利用されているようですが、廃棄量は多いということでした。しょうがないことかもしれないですが、何か他にも利用方法を考えることはできるのではないかと感じました。
 このように、お話を聞く中で、それぞれが抱える課題などに直面することがよくあります。その課題について考え、新たな発想を提案することが「よきもの」である私達にできることのひとつなのかもしれません。陸前高田の「おいしい」の秘密を探ることを軸にしつつも、私達の活動の在り方についても考えることができ活動になりました。



「のこす、街歩き、発見・発信」

現在の「発見・発信班」は事業開始当初は「のこす」でした。「のこす」では、陸前高田の歴史・文化・震災について若者が知るため、全国から陸前高田に関わる資料（文献や写真集、震災の記録など）を集め、保管し、何時でも若者が閲覧できるような環境を構築する（シェアライブラリ）ことを目標としていました。また、独自で調査も実施し、資料をのこすに公開することも目指していました。

しかし、事業開始後、約1年間は、人員や予算の関係で「家づくり班」の活動が主となり、「のこす」の活動を行うことができませんでした。「家づくり班」の大規模な施工が終了してから、「のこす」の活動内容について話し合いが行なわれましたが、その時にはすでに外部団体・企業が既に資料集めを進めていることが分かりました。差別化を図るために、今まで若輿人の家の中だけで活動してきた学生が外に出て、街歩きを通して陸前高田市内の魅力を発見し、それを何かしらの形で残すのどうか、という案ができました。そして、「のこす」から「街歩き」になりました。

2014年9月までは、他にも「つづ」交流」という班もあり、「街歩き」で発見した内容を「交流」で発信しようということになっていました。しかし、発見と発信は切り離せないものであり、魅力を発見したメンバーがそのまま発信も担う方が、効率上がるのではないかとこの意見があり、2014年10月に「街歩き」と「交流」をまとめ、現在の「発見・発信班」となりました。



参加までの流れ



土曜日		日曜日	
6:38	陸前高田着、朝食調達	7:00	起床
7:00	朝食、掃除	8:30	活動開始
8:30	活動開始	11:30	昼食
11:30	昼食	13:00	活動再開
13:00	活動再開	17:00	活動終了、振り返り
17:00	地域の方々との交流会	19:30	夕食
19:00	活動終了	21:51	陸前高田出発

活動の大まかな流れ ※金曜日夜出発、月曜朝到着

ご参加の際には、「家づくり班」/「発見・発信班」どちらも体験できるように調整しますが、ご希望がある場合は申込時にお伝えください。原則 毎月第3土日が活動日ですが、変更することもございます。(7月、1月は学生のテスト期間のため実施しません)。
☆参加希望者は w-zakusei@savetakata.org に下記をご記載ください。
氏名 / 所属 / 連絡先(メールアドレス & 電話番号) / 活動に参加する上で期待すること、その他

交流会参加者から

●震災後被災した地域を歩くことがなかったのでとても良い機会になりました。街歩きをして震災前の忘れていた風景、部活で走ったこと、遊んだこと、またとても懐かしいほっこりした出来事などたくさんを思い出することができました。当時のことも思い出しましたが懐かしい良い思い出の方がとても多く思い出されました。また、改めて陸前高田について考える良い機会になりました。

●交流会は大学生のみならずシチューを食べながら色々は話げて楽しかったです♪

●こうして地方の大学生の方々とお話をするのができて楽しかったです。またこのような機会があれば誘ってください!

●陸前高田のこともこんなに考えてくれていることも知り、本当に嬉しかったです!

発見・発信班の目標

2014年11月 「外部・内部の人からみた陸前高田の魅力を伝える」
「おいしいの源を知る」
2015年3月 「現地の人に若輿人の家の活動を知ってもらう」
(現地の人と関わる)

デザイン

広報



◆成果物
 若興人の家メインロゴデザイン・若興の家事業ロゴデザイン
 ・オリジナルあざふりフレット・オリジナルステッカー
 ・PMメンバー名刺・思案中・わこうどカード・思案中
 ・W-BOX* 思案中・wakoDOkei(時計)・全力坂プロジェクト
 (撮影&編集)・エコツーリズムパネルデザイン・わこうど
 ログテーブル・若興の家小看板・若興の家大看板・PMM
 用ネームプレート・新規参加者用ネームカード・若者文化祭
 パネルデザイン(歴史、年表、イベント、図面3枚、ロゴ2
 枚)・ウォールペイント・図面制作(CAD)・若興人Tシャツ
 ・若興の家専用記名帳・若興の家利用マニュアル etc...



●若興人の家の活動を周知、報告

広報の一つ目の目的は、若興人の家の活動を周知し、報告することです。
 主に SNS を使って広報し、具体的な活動内容は、定例ミーティングの報告、各班（家づくり班、発見・発信班）のミーティング報告、Youth for 3.11 の事前研修参加報告、活動募集開始の告知、現地活動の様子、見学日時の発表、日報投稿、月間報告を行っております。

●発見・発信班の成果物を発信

広報の二つ目の目的は、発見・発信班の成果物を発信することです。広報は主に発見・発信班と連携して行っていきます。まちあるきで作った成果物、活動を月ごとにまとめた新聞「わこうどつうしん」を PDF にし、Facebook と HP に投稿したり、印刷したものを若興人の家のファイルに入れて保管、お世話になった人などに送ります。

●わこうどつうしん

わこうどつうしんでは、主に家づくりやまちあるき、地域の方との交流会、陸前高田の産業ヒアリングなどといった若興人の家の活動を、文章・絵・写真を用いて記事にしたり、活動に参加した若興人の家のメンバーからのコメントなどを載せています。
 わこうどつうしんを通して、陸前高田の魅力を多くの人に知ってもらおうと同時に、若興人の家も知ってもらえたらいいなという思いを込めて、これから発行していきたいと思ひます。



参加イベント

1

2014年6月21日 リンゴの摘果
「米崎リンゴ」で有名な陸前高田市で農業体験
りんごの木が多くなっていると栄養が分散しておいしくならないので、適度に実を落とす。

主催：一般社団法人SAVE TAKATA



2

2014年6月21日 サツマイモ苗植え&バーベキュー
・サツマイモの苗植え体験
・産直はまなすさんの野菜を使ったバーベキュー
・他大学学生(8名)との交流

主催：産直はまなす



3

2014年6月22日 陸前高田市高田町
うごく七夕まつり準備 手伝い
・うごく七夕まつりの歴史をまとめたDVD鑑賞
・山車の飾り「あざふ折り」づくり(約1000個)

主催：陸前高田市 河原組



4

2014年7月6日 TYC vol.6
～はじめまして東北～
東北大好きな学生が「東北のイマ」を考えるイベント
・参加団体の紹介
・コラボ企画作り
(計11団体参加)

主催：Tokyo Youth Conference for 3.11



5

2014年8月7日 陸前高田市高田町
うごく七夕まつり 当日手伝い
(森前組)
陸前高田の夏の一大イベントうごく七夕まつり
・写真/動画撮影
・イベントTシャツ販売
・参加者へのインタビュー

主催：陸前高田市高田町



6

2014年9月5日～7日 奥尻島視察
北海道南西地震で甚大な被害を受けた奥尻島。
陸前高田の被災状況・現状と比較しながら、若者である私たちが陸前高田で何ができるか考えた。
・語り部による防潮堤の説明
・各日確実振り返りミーティング

主催：奥尻島観光協会



7

2014年10月4日 「まちあるき」@矢作町
どう陸前高田の魅力を発見・発信していくか。
これからの活動のヒントを探すためにまちあるきに参加。
陸前高田の新たな魅力も発見！

主催：陸前高田市まちづくりプラットフォーム
陸前高田まちづくり協働センター



8

2014年11月15日～16日 いわて若者文化祭
・「若興人の家」としてパネル展示を行う
・このイベントに向けての準備が自分たちの活動を見直す機会になった

主催：いわて若者文化祭実行委員会



9

2014年11月22日 桜ライン311植樹会
・運営ボランティアとして参加
・駐車場の誘導と受付の補助をおこなった

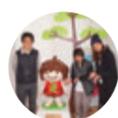
主催：認定NPO法人 桜ライン311



10

2014年11月21日 まつぼっくりちゃん展
設営のお手伝い
・ブース設営
・展示物配置
・壁面装飾

主催：ありがとう りくせんたかた
「まつぼっくりちゃん」



11

2014年11月29日 日本エコツーリズム協会
学生シンポジウムへの出展
・パネル部門での展示
・プレゼン

主催：NPO法人 日本エコツーリズム協会



12

2015年1月8日 Switch vol.4
「東北にコミュニティの場をつくった都市大生」
学内外で活躍する都市大生や若者をゲストに活動を発表してもらったイベント。
・東京都市大学学生への講演
・若興人の家の紹介
・活動参加メンバー募集

主催：都市生活学科学学生会



27

26



いわて若者文化祭 出展

事業開始から一年余りの間、私たちは目の前にある「やりたいこと」に全力で向かって、突っ走ってきました。良くも悪くも自分たちの活動を振り返る機会はありませんでした。何百枚もの施工写真や、それぞれの思い、活動の歴史などを「みんなに知ってもらいたい」と思いながらも、見せる「ものが準備できていない。そんなことをちょっと感じ始めていた2014年8月のこと。SAVE TAKATAの佐々木さんから、「こんなイベントあるんだけどやってみますか?」と提案されたのが、この「いわて若者文化祭」です。イベントまでの準備期間が限られていたため、全員が関わることはできませんでしたが、「若興人の家を知ってもらえるいい機会」「自分たちの活動をまとめたい」というメンバーの賛同もあって、参加を決めました。

準備が始まったのは10月の初め。「せっかくなら最高のものを作りたい。」「あれも作ってみたい、この活動も紹介したい。」

〇いわて若者文化祭概要

《開催日程》

2014年11月15日～16日

《開催場所》

プラザおでっ、ななっく、

肴町商店街

《開催目的》

- ・次代を担う若者に、日頃培った文化芸術の発表の場を提供するとともに、文化活動を通じた交流の場を創出すること。
 - ・復興と今後の若手の未来に向け、若者による文化活動がさらに活発になることにより、日々の生活に潤いが生まれるなど生活の質や地域の魅力が向上すること。
 - ・県全体の文化芸術の新たな魅力を高め、県の情報発信力を強化すること。
- (いわて若者文化祭実行委員会HPより)



「もっとこうしたら…」限られた期間で、寝る間を惜しんで行われた準備は大変なものでしたが、それよりも自分たちの活動が形になっていく喜びを味わうことができました。

それまでリーダーのパソコンの中に眠っていた写真や、途中から参加したメンバーが知らなかった若興人の家の歴史。パネルを作るためにはまず自分たち自身が活動全体を把握しなければならぬということもあり、自分たちの活動を知る機会になり、とても充実した一ヶ月間でした。

文化祭ではたくさんの人が私たちのプーに足を運んでくれました。自分たちの活動を直接広報する際は、資料や写真を用意したことで説明しやすくなりました。また、それまでは正直、自分たちの活動が周りのように評価されているかわかりませんでした。見に来てくださった方々が興味を持って話を聞いてくださり、自信にもなりました。

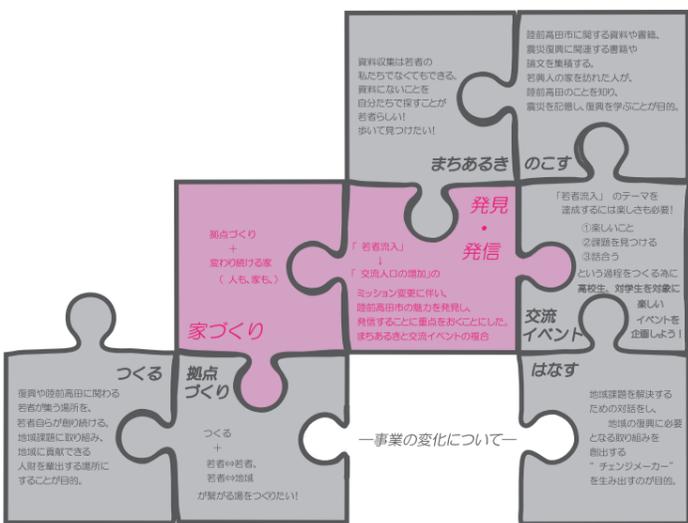
今回のイベントは、何よりも若手の人々に直接広報できたという点がとてもよかったと思っています。また、今回活動をまとめたことにより、広報のツールもできました。振り返ってみると、「若興人の家」の活動の基盤ができ、運営体制も整って、このような報告書を作るに至ったのも、このイベントがきっかけだと思います。様々な意味で重要な契機となった「いわて若者文化祭」に感謝です。

展示内容に対する点数とその理由について

《点数とコメント》

- 120点 (1名)
100点 (5名)
- ・やっていることがよく分かった。特に、家の図面が印象に残った。
 - ・話が上手い。
 - ・他県の方がこのような活動をしていて感心した。私たちも参考にさせていただき自分にできることに取り組みたいです。
 - ・文章はもちろん、目をひくデザインが素敵。特に今までの活動パネルが印象に残った。
- 99点 (1名)
- ・1点は今後の更なる活動に期待。
- 90点 (3名)
- ・カラフル、実際に模型があって分かりやすい。特に、間取りと写真が印象に残った。
 - ・パンフレットの形が特に印象に残った。
- 80点 (6名)
- ・情報が多くてよかった。
 - ・全体的に良かったが、写真などが小さい。特に活動内容が印象に残った。
 - ・興味を引きました。
 - ・分かりやすかったと思います。
 - ・20点は将来の活動分に残しておきます。自分の中では、学生という立場ながら真剣に取り組んでおられる皆様に尊敬します。
 - ・内容もすばらしいが展示のクオリティも高い。特に、家の模型が分かりやすく印象に残った。
- 70点 (1名)
- ・展示は見やすいが、スペースが狭い。
- 《コメントのみ》
- ・展示内容が細かく良い。リーフレットの形が特に印象に残った。
 - ・人の優しさと繋がりを感じ、ありがたい、頼もしいと思います。これからもよろしくお願いします。
 - ・すこい

◆若興人の家のブースに足を運んでくださった方々に、アンケートにご協力していただきました。たくさんコメントをいただきました。ご来場、ご協力ありがとうございました。



＊視察行程

日程	見学施設	内容
1日目 (9/5)	宮津弁天宮	見学
	稲穂遺跡（費の河原公園）	見学
	稲穂地区盛り土・防潮堤・水門	見学
2日目 (9/6)	なべつる岩・うにまる公園	見学
	松江地区防潮堤	見学
	高台移転住居・復興住宅	見学
	青苗漁港人口地盤（ヴォールト構造）	見学
	避難路（階段・スロープ）	見学
	奥尻島津波館・時空翔	見学
3日目 (9/7)	奥尻町役場青苗支社	意見交換会
	青苗小学校（ピロティー構造）	見学
	津波最高到達点	見学
	奥尻ワイナリー工場	見学
	球島山展望台	見学

視察内容・考察

【防潮堤】

奥尻島では、その地点に到達した津波の高さと同じ高さの防潮堤を建設しているため、場所によって高さが違う防潮堤が見られました。松江地区では、11.6mという最も高い防潮堤の断面を見ることができましたが、下から見上げると、なんとも言えない異様な光景で、圧迫感を感じました。同時に、不安感も覚えました。それは、防潮堤があるから大丈夫、93年以上の津波は来ないだろう、という現地の人の空気を感じたからだと思います。奥尻島視察に来た外国人の中には「防潮堤という考え方や技術は素晴らしいが、自分たちにはまねできない。防災のために『ものを作る』という発想はない。」とおっしゃる方が多いという話も伺いました。災害が多い日本だからこそ生まれた発想・技術ですが、有事の時に一番重要なのはどんな立派な設備よりも、自分自身の判断であり、ひとりひとりが防災意識を持つことこそが減災・防災につながると実感しました。

【水門】

手動で開閉する水門と揺れを感知すると自動で開閉する水門の2種類を見学しました。前者については、有事の時にはその地区の防災担当者が開めることになっているとのことでしたが、東日本大震災では、このような水門を閉じようと海に戻ったために、避難が遅れて波に飲まれた例もあります。このことから、自動で開閉する水門を作るべきだと考えられているようですが、予算が限られているので手回しの手が回らないのが現状で、難しい課題だと感じました。

【津波館】

実際に震災を経験された語り部ガイドさんに案内してもらいながら館内を巡りました。館内は写真資料が多くあり、当時の状況をつかむことができました。ガイドさんが、私たち学生を見て、「あの時死んでしまった赤ちゃん達も生きていれば、このぐらいだったのかな」と、ふとした瞬間に少し目を潤ませていました。それが今回の視察の中で最も被災体験をリアルに感じ、胸が締め付けられた瞬間であり、強く印象に残っています。また、津波館の外には、時空翔という追悼碑がありました。時空翔の真ん中には溝があり、震災の発生した7月12日に石の正面に海に向かって立つと、夕日がちょうどこの溝に沈むようになっています。

【奥尻ワイナリー】

奥尻ワイナリーは震災後に、雇用創出と新たな奥尻ブランドを作ることを目的に設立されました。震災後0から始めたにもかかわらず、今や立派な奥尻島の名産品の1つになっており、フェリー乗り場のお土産売り場などでも販売されていました。視察を通じて感じた奥尻島の課題は、人口が減少し、産業が衰退し、仕事がないために若者が島を出ていくという悪循環に飲み込まれているということです。その中で、新たな名産品としてワインを売り出すという前向きな取り組みは、同じ課題を抱える陸前高田やその他東日本大震災の被災地にとっても参考になるものだと感じました。

視察を通じて ～今後の陸前高田へ～

何も知らずに奥尻島を訪れたならば21年前に津波により甚大な被害を受けた場所だとは誰も思わないかもしれませんが。それだけ復興が進んでおり、新しく整備された街だけ見ると、初めて訪れる人にとっては、津波の脅威を想像することは難しいと感じました。そこで大切になるのが「いかに伝えるか」だと思います。今後復興が進む中で、陸前高田にも、奥尻島の津波館のような「震災を後世に伝えていく」施設が建設されていくと思います。その中で、何を伝えなければいけないのか、どうすれば自分事として感じてもらえるのか、しっかり考える必要があります。そして、被害の壮絶さだけではなく、一人一人の命の大切さを伝えていくものでなければならないと感じました。

今後の発展に関して言えば、視察や話を聞く中で感じたのは「現状維持の志向」でした。ある程度の復興を遂げて、そこからの発展がないような印象をいたるところで感じました。高齢化が進む街で「発展」を考えることは確かに難しいのでしょうか。そこで、ひとつのキーワードになるのが「若者」なのではないでしょうか。私たちのような「未来志向」の若者が、意欲的に活動することが、街の活気づけにも繋がることを信じ、これからも地域の方たちと密接に繋がりをしながら活動していきたいと強く思いました。



2014年9月5日～7日にトヨタ財団国内助成プログラムの一環として、奥尻島を視察させていただきました。1993年7月12日に発生した北海道南西沖地震で、奥尻島は甚大な被害を受けましたが、その後の迅速な復興施策により、津波対策の先進地として知られています。奥尻島と陸前高田の比較を通して、陸前高田において若者である私たちには何ができるかを考え、今後の活動に活かすことを今回の視察の目的としました。

◆奥尻島視察概要◆

地震名	北海道南西沖地震	東北地方太平洋沖地震
マグニチュード	7.8	9
発生日	平成5年7月12日	平成23年3月11日
発生時刻	22:17	14:46
災害名	北海道南西沖地震災害	東日本大震災
死者	202	15891
行方不明者	28	2584

出典：警視庁災害警備本部広報資料(27年3月11日現在)

	奥尻島	陸前高田
震度	6（推定）	6弱
津波到達時刻（第一波）	22:19	15:23
津波の高さ	29m（31mの説もある）	18.3m
死者行方不明者	172人・26人	死者1601人 / 行方不明者207人
建物全壊半壊	437棟・88棟	3159棟・182棟
避難場所数	17	84
避難者数	2014人	10143人
仮設地帯設置地区数	9	53
仮設住宅設置戸数	330	2168
被害総数	665億円	190億円
当時の年間予算規模	50億円	110億円（平成21年度）
地震発生当時の人口	約4700人	24246人
現在の人口	2921	20351人（平成27年2月28日現在）
復興宣言	平成10年3月（地震発生5年後）	まだ

出典：いわて防災情報ポータル(27年2月28日現在)

今までの想い

第1期学生リーダー

東京都市大学 3年 久保玲奈

「身近な人に被災地を訪れてほしい」
この想いが、私の原点です。参加人数がどんなに多くても、身近な人の心を動かすことができなければ、自己満足の活動になってしまう気がしていました。『ボランティア』という壁をどう低くして、「行ってみよう」と思ってもらえるか…試行錯誤しながら、参加者募集の広告を作成し始めました。参加者が4名、7名、10名…と少しずつ増えると、東京でのミーティング回数も増え始め、陸前高田での活動（以下、現地活動）も充実したものとなっていきました。

現地活動で出会う多くの新規参加者を見ていて、毎回思うことは「活動の前と後で表情が全然違う」ことです。活動を通して、与えられた作業をこなすだけでなく、「作業効率を上げるにはどうしたらいいか」「この空間はどうすれば魅力的になるか」などを考えるようになったり、他の参加者と交流することで専攻分野外について知り、刺激を受けたりする姿を多く見てきました。

しかし、それと同時に「どこまで楽しく、どこまで真剣に活動するか」が課題となりました。リーダーの私は日々様々な業務を行い、現地活動では参加



者に指示を出し、皆が楽しく活動をしている光景を見ていたので、全体的に満足していました。そんな中「楽しむだけの活動に意味があるのか」と、一部のPMメンバーから声が挙がり、このとき初めて、私の自己満足の活動になっているのかもしれないと感じました。それに加え、PMメンバーのことを信頼していなかったのだと気づきました。PMメンバーがどのような意志でこの事業に関わっているかを分かっていながら、任せられる業務も全てが行い、割り振ることをしなかったのです。

それからは「私の想いを伝える」「PMメンバーの想いを引出せる環境をつくる」ための引継ぎをすることを意識し、一人ひとりにヒアリングをしました。「今の活動テーマについてどう思うか」「活動で何をしたいか」をじっくり聞いていくと、今後の方向性や、誰に何を任せられるかが具体的に見えてきて、スムーズな引継ぎに繋がりました。ヒアリングをしたことで一番良かったのは、任せられた業務をこなすのではなく、「自分はこれをして若興人の家を発展させたい」と自主性を持って関わるPMメンバーが増えたことです。学生が企画する活動の難点である「個々のモチベーションの差による意見の不一致」や「団体立上げ者の想いが代々薄くなっていくことで軸がぶれる」などを越えられたと思っています。

今までコアとして関わってきた18名のPMメンバーの内、約半数は私にとって身近な人です。「身近な人に被災地を訪れてほしい」という想いから関わり始めた活動でしたが、様々な困難を乗り越え、「若興人の家が好き」と思うメンバーばかりに恵まれました。

今後の展望

第2期学生リーダー

お茶の水女子大学2年 井手菜摘

若興人の家は、ようやく運営体制や活動の基盤が整って、安定してきたのではないかと感じています。ここまでしっかりとした体制を作って引き継いでくださった先輩方に感謝し、先輩方の想いをしっかりと受け止めつつ、第2期学生リーダーとして、私下次の一年で最も注力したいと考えていることは、WAKODOO-BOXの運営です。今後活動していく中で、自主財源を確保することはとても重要であると思っています。そして、心こもる運営体制が整った今だからこそ取り組むべきことであると認識しています。このWAKODOO-BOXは、自主財源の確保という点はもちろん最も重要なですが、広報としてもとても大きな意味を持つと考えています。現在のところ「若興人の家」は、東京での知名度がほとんどなく、広報もSNSが主であるため、なかなか広く浸透しづらい状況です。そういった中で様々な人の目に触れる場所に私たちの活動の一端としてこのBOXを設置することで、また違ったフィールドもふくめ、より多くの方々に私たちの活動を知っていただく機会になるのではないかと考えています。

また、私は「若興人の家」の活動が、細くてもい

いから「永く」続いていくと欲しいと思っています。そのために最も大切なことは、一人一人との出会い、そして交流を「丁寧に」していくことであると考えています。「交流人口の増加」が目的であることから、ともすると「人数」のみに意識が行きがちです。たくさんの人、一人でも多くの人に陸前高田を訪れて欲しいという想いももちろんあります。確かに、交流人口という字面としては、「人数」を表すと思えます。しかし、一人一人の「陸前高田での記憶」が濃いものであればあるほど、印象的であればあるほど、「永く」関わっていただける人となってほしいのではないかと考えます。量はもちろん、質にこだわりたいということが私の想いです。活動の質を上げ、一人一人により中身の濃い経験をして欲しいと思っています。

震災から4年、かさ上げが本格化した陸前高田市内は急速な変化を遂げていると感じます。実際に私も、2014年10月以降は毎月1回以上陸前高田を訪れているわけですが、市内を巡ることがない月を挟むと、びっくりするくらい変化していることがしばしばありました。陸前高田についてまだまだ知らないことだらけであるだけでなく、知っている場

所もどんどん変化していく今だからこそ、陸前高田に関わる私たちが「見て」「感じて」「考えて」「伝える」ことが重要だと考えます。そのことが、たくさん学びをくれる陸前高田への恩返しになればと思っています。

※1 株式会社VALUEBOOKSが提供する新しい寄付の仕組み「チャリボン」。私たちは、この仕組みを利用して活動資金を集めようとしています。ご自宅に眠っている古本がございましたら、「チャリボン」で検索し、手順に従って寄付していただくと幸いです。（送料無料、集荷可能）



PMメンバー紹介

これまでのメンバー

現在のメンバー

※2015年4月時点



お肌つるつる*

佐藤 柁平

明治大学卒業

陸前高田はふるさとづくりの最先端（フロンティア）です。



不思議系女子♡

関 瑞希

東京都市大学

小さなことでも私たちにもできることがある！



ムードメーカー◎

かずお (山本和希)

早稲田大学

陸前高田のあたたかさに触れつづけたい！



イケメン女子！

久保 玲奈

東京都市大学

第2のふるさと陸前高田を盛り上げたい！



りんご娘♡

井手 菜摘

お茶の水女子大学

陸前高田の魅力をもっと知りたい！広めたい！



個性派デザイナー

又吉 (鈴木紀明)

東京都市大学卒業

学生と地域の人との繋がりをつくりたいし、陸前高田の新たな可能性を切り開きたい！



弟キャラ！

竹内 光宏

東京都市大学

行く前より陸前高田をもっと知りたい！関わりたい！



ホス★

須田 怜那

東京都市大学

自分が学んだ建築の知識を活かせるし、多くのものを得られる！



赤い人

佐竹 高祐

東京都市大学

陸前高田の良さをもっと知りたい！発信したい！



看板娘♡

渡部 花野子

早稲田大学

陸前高田の魅力をもっともっと発信していきたい！



ユーモアしちゃうよ！

境 薫子

早稲田大学

陸前高田を笑顔溢れる街にしていきたいです！



まちあるき少女♪

瀬川 千咲子

東京都市大学

陸前高田の魅力がたくさん発見して、たくさん発信したい！



気配りババ

山本 太郎

早稲田大学 大学院

震災を忘れない存在でい続けたい！



ものづくり大好き!!

田邊 快登

東京都市大学

ご飯が美味しい！自然が綺麗！高田の人達が温かい！



クールストレート

田中 匠

東京都市大学

見たものを伝えて風化を少しでも食い止めたい！



クールなまとめ役

柴野 春菜

明治学院大学

陸前高田の魅力を多くの人に知ってもらいたいです！



温厚な大食い

石澤 咲樹

明治学院大学

大好きな陸前高田をみんなにも好きになってもらいたい！



みんなのお母さん

小川 杏子

お茶の水女子大学 大学院

「想い」やつながりを大切に、活動に関わっていききたい♪



収支計算書

(2014.4.1-2015.3.31)

費目	単価	数量	単位	金額	備考
旅費交通費	¥12,000	60	回	¥720,000	高速バス及び宿泊(池袋～陸前高田) 改修工事・現地ヒアリング 2日間(土日) 1人当たり12,000円補助
旅費交通費	¥16,000	5	回	¥80,000	高速バス及び宿泊(池袋～陸前高田) 改修工事・現地ヒアリング 2日間(土日) 1名につき16,000円補助
旅費交通費	¥14,820	1	式	¥14,820	新幹線代(一関～東京)プロジェクトリーダー ワークショップ参加の為
旅費交通費	¥7,540	1	回	¥7,540	高速バス代(一関～東京)プロジェクトリーダー ワークショップ参加の為
旅費交通費	¥11,441	4	回	¥45,764	いわて若者文化祭参加費用(東京～盛岡) 交通及び宿泊費用
旅費交通費	¥18,600	1	回	¥18,600	合宿2/21～23(2泊3日) オリンピックセンター
通信費	¥6,156	12	ヶ月	¥73,872	インターネット回線使用料
通信費	¥1,852	1	年	¥1,852	独自ドメイン取得費用 wakakoudonoie.jp を取得
通信費	¥515	12	ヶ月	¥6,180	サーバレンタル費用 公式ホームページ維持費
広告宣伝費	¥4,582	1	式	¥4,582	フライヤー印刷費 上質110kgフルカラー
広告宣伝費	¥100,000	1	式	¥100,000	ホームページ改修費用
備品費	¥173,843	1	式	¥173,843	金槌、ノコギリ、メジャー、脚立など改修に必要な工具や資材等、施設利用上必要な備品の購入費
保険料	¥16,270	1	年	¥16,270	火災保険
会議費	¥48,640	1	式	¥48,640	会議費
人件費	¥32,000	12	ヶ月	¥384,000	若者リーダー 人件費
人件費	¥62,000	12	ヶ月	¥744,000	プロジェクトリーダー 人件費
支払手数料	¥324	120	回	¥38,880	銀行振込手数料
光熱費	¥4,500	12	ヶ月	¥54,000	若興人の家 水道、ガス、電気費用
賃借料	¥15,000	12	ヶ月	¥180,000	若興人の家 家賃
合計金額				¥2,712,843	※2013年3月までの予算計画書を試算

●助成金元 トヨタ財団様から

トヨタ財団は2013年から一年間、助成金という形で「若興人の家/WAKOUDO HOUSE」プロジェクトを支援させていただきました。2012年秋、SAVE TAKATAのチームからいただいた企画書には、震災から1年5ヵ月を経た当時の陸前高田における「若者」への支援の不足、地域に最も必要な若者たちが地元の人々や同じ考えを持った人々と出会い語る事のできる「居場所」が少ないことへの危機感、そして全国の若者と陸前高田の繋がりを支える拠り所を、若者たち自身の手でつくりたいというビジョンが熱く語られていました。

プロジェクトを進める上では作業の遅れなどの困難もあったようですが、拠点を「つくる」ことを通じて外と内の若者をしっかりと巻き込み、繋がりを深め、広がっていくことに少しでも助成金が役に立ったのであれば、トヨタ財団としても大変うれしく思います。今後もこの志が受け継がれ、陸前高田の未来のための活動に「若興人の家」が活き活きと使われていくことを期待しています。

奥尻島 視察 予算書

費目	単価	数量	単位	金額	備考
旅費交通費	¥151,920	1	式	¥151,920	学生 旅費(飛行機代)
旅費交通費	¥2,040	1	式	¥2,040	学生フェリー代
旅費交通費	¥41,950	1	式	¥41,950	学生 旅費(ETC・ガソリン・フェリー代)
旅費交通費	¥10,700	1	式	¥10,700	学生(バス・新幹線代)
旅費交通費	¥29,260	1	式	¥29,260	プロジェクトリーダー 移動、宿泊分
旅費交通費	¥96,600	1	式	¥96,600	奥尻島 宿泊 6名 2泊分
旅費交通費	¥12,610	1	式	¥12,610	プロジェクトリーダー 報告書作成の打ち合わせ分 一関 → 東京
旅費交通費	¥13,020	1	式	¥13,020	プロジェクトリーダー 報告書作成の打ち合わせ分 東京 → 一関
旅費交通費	¥5,500	1	式	¥5,500	プロジェクトリーダー 報告書作成の打ち合わせ 宿泊分
旅費交通費	¥29,700	1	式	¥29,700	レンタカー 使用分 函館から奥尻島まで(48時間)
通信運搬費	¥2,860	1	式	¥2,860	資料及び荷物郵送 等
印刷製本費	¥86,600	1	式	¥86,600	報告資料制作
謝金	¥108,000	1	式	¥108,000	奥尻島研修 受け入れ先への謝礼
会議費	¥1,600	1	式	¥1,600	会議室使用分
人件費	¥84,000	1	式	¥84,000	人件費 プロジェクトリーダー
支払手数料	¥540	1	式	¥540	振込手数料
				¥676,900	

参加メンバーリスト

東京都市大学	関わり方/就職先
東京都市大学	都市生活学部・都市生活学科 4年 2013年10月～ 運営メンバー
東京都市大学	工学部・建築学科 3年 2013年10月～ 第1期学生リーダー
東京都市大学	工学部・建築学科 3年 2013年11月～ 運営メンバー
東京都市大学	工学部・建築学科 3年 2013年10月～2014年10月 元 運営メンバー
東京都市大学	工学部・建築学科 3年 2014年4月～2014年10月 元 運営メンバー
東京都市大学	工学部・建築学科 3年 2013年10月～2014年10月 元 運営メンバー
東京都市大学	工学部・建築学科 3年 2014年3月～2014年10月 元 運営メンバー
東京都市大学	工学部・建築学科 3年 2014年7月 参加メンバー
東京都市大学	工学部・建築学科 2年 2014年2月 参加メンバー
東京都市大学	都市生活学部・都市生活学科 2年 2014年9月～ 運営メンバー
東京都市大学	工学部・建築学科 3年 2014年12月～ 運営メンバー
東京都市大学	都市生活学部・都市生活学科 2年 2015年3月 ミーティング参加

早稲田大学	関わり方/就職先
早稲田大学	商学部経営コース 3年 2014年2月～ 運営メンバー
早稲田大学	文化構想学部・社会構築論系 3年 2014年2月～4月 参加メンバー
早稲田大学大学院	創造理工学研究科・建設工学専攻 修士1年 2014年2月～6月 WAVOCチーム陸前高田参加メンバー
早稲田大学	教育学部教育学科 3年 2014年2月～6月 WAVOCチーム陸前高田参加メンバー
早稲田大学	(卒業) 2014年2月 生命保険会社
早稲田大学	(卒業) 2014年2月 中学校・高等学校教員
早稲田大学	先進理工学部・電気・情報生命工学科 4年 2014年2月
早稲田大学大学院	(卒業) 2014年2月 事務局長
早稲田大学	(卒業) 2014年2月 学びの部屋
早稲田大学	3年 2014年2月 学びの部屋
早稲田大学	3年 2014年2月 WAVOCチーム陸前高田3daysプログラム参加メンバー
早稲田大学	2年 2014年2月 WAVOCチーム陸前高田3daysプログラム参加メンバー
早稲田大学	3年 2014年2月 WAVOCチーム陸前高田3daysプログラム参加メンバー
早稲田大学	(卒業) 2014年2月 WAVOCチーム陸前高田3daysプログラム参加メンバー
早稲田大学	4年 2014年5月 学びの部屋
早稲田大学	政治経済学部・政治学科 1年 2014年10月～ 運営メンバー
早稲田大学	1年 2014年10月～ WAVOCチーム陸前高田参加メンバー
早稲田大学	政治経済学部・政治学科 1年 2014年12月～ 運営メンバー
早稲田大学	法学部 1年 2014年12月 WAVOCチーム陸前高田参加メンバー
早稲田大学	1年 2014年12月 WAVOCチーム陸前高田参加メンバー
早稲田大学	社会科学部 1年 2014年12月 WAVOCチーム陸前高田参加メンバー
早稲田大学	文化構想学部 1年 2014年12月 WAVOCチーム陸前高田参加メンバー
早稲田大学	法学部 3年 2015年2月 WAVOCチーム陸前高田参加メンバー

お茶の水女子大学	関わり方/就職先
お茶の水女子大学	文教育学部・言語文化学科 3年 2013年11月 Youth for 3.11
お茶の水女子大学	文教育学部言語文化学科・グローバル文化学科 2年 2014年6月～10月 元 運営メンバー
お茶の水女子大学	文教育学部・人文科学科 2年 2014年6月～ 第2期学生リーダー
お茶の水女子大学大学院	博士1年 2014年6月～ 運営メンバー
お茶の水女子大学	2年 2014年6月 講義より参加
お茶の水女子大学	4年 2014年6月 卒論調査として陸前高田を訪問

その他	関わり方/就職先
東北大学	2013年9月
東北大学	経済学部 (卒業) 2013年9月
東北大学	2013年9月
東北大学	文化研究科 2013年9月
神戸大学	2013年9月
神戸大学	工学部建築学科 4年 2014年2月 Youth for 3.11短期派遣
明治大学	農学部 (卒業) ～2013年12月 第0期学生リーダー
	大学教授
	(卒業)
千葉大学	(卒業) 東急グループ
岩手県立高田高等学校	(卒業) デザイナー
立教大学	4年 2013年12月 Youth for 3.11短期派遣
	3年 2013年12月 Youth for 3.11短期派遣
中央大学	(卒業) 2013年12月 Youth for 3.11短期派遣
新潟工科大学	建築大工科 2年 2014年2月～3月 Youth for 3.11短期派遣
法政大学	国際文化学部 (卒業) 2014年2月 TSUMUGI Inc.代表取締役
福岡大学	工学部・建築学科 2年 2014年2月 Youth for 3.11短期派遣
上智大学	文学部・英文学科 3年 2014年2月 Youth for 3.11短期派遣
	2014年3月 岩手県一関出身
	2014年4月 夢たぴとBASE
金沢大学	人間社会学域 経済学類 経営・情報コース 3年 2014年3月
千葉大学	工学研究科/建築・都市科学専攻 (卒業)
私立慶応義塾志木高等学校	(卒業) 2013年11月 株式会社
明治学院大学	3年 2013年11月 Youth for 3.11
名古屋工業大学	工学部・建築学科 昭和53年卒 2013年～ 1級建築士
	2013年10月～
	2014年2月～4月 仙台雜誌編集者
桜ライン311	2014年10月～ 交流会参加
岩手大学	農学部 3年 2014年10月 交流会参加
陸前高田市役所	2014年10月～11月 交流会参加
陸前高田市役所	2014年10月 交流会参加
東京工芸大学	芸術学部・デザイン学科 3年 2014年11月 参加メンバー
岩手県立高田高等学校	2年 2014年12月～2015年2月 街歩き、交流会参加
岩手県立高田高等学校	2年 2014年12月～2015年2月 街歩き、交流会参加
岩手県立高田高等学校	2年 2014年12月 街歩き、交流会参加
岩手県立高田高等学校	2年 2014年12月 街歩き、交流会参加
岩手県立高田高等学校	2年 2014年12月 街歩き、交流会参加
明治学院大学	2015年2月
明治学院大学	国際学部・国際学科 1年 2015年2月～ 運営メンバー
明治学院大学	社会学部 1年 2015年2月～ 運営メンバー
慶應義塾大学	4年 2015年2月 参加メンバー
東洋大学	国際地域学部・国際観光学科 1年 2015年3月 ミーティング参加

※2015年3月20日時点



若輿人の家を支えてくださった皆さま



株式会社イトーキ
一本松茶屋
岩手県立高田高等学校 教諭 狩野るり子さま
岩手県立高田高等学校 有志生徒
お茶の水女子大学 グローバル文化学環 教授 熊谷圭知
小友砂利店
小野電気 小野和剛さま
岩大 E_code
カフェ・ミヤマ 浪谷公園通り店 (株式会社 銀座ルノアール)
菊池純一さま
クラフトカカタ
佐々木正敏さま

産直はまなす
特定非営利活動法人全国コミュニティライフサポートセンター (CLO)
気仙大工 菅原康朗さま
有限会社 高田活版
高田大隅つどいの丘商店街
地域支縁団体ARCH (現 東北ふるさとづくりパートナーズ)
辻ヶ花興産
東京大学大学院 仁平典宏さま
東京都市大学総合研究所応用表現研究室
東京都市大学 都市生活学部 都市生活科学学生会
Tokyo Youth Conference for 3.11
NHK 東北発☆未来塾「未来への芽」

日本エコツーリズム協会 学生会 副代表 泉有香
(株)長谷川建設
北陸学院大学 田中純一さま
村上瞬さま
陸前高田☆川原祭組
陸前高田市役所職員有志
陸前高田花菜畑の会代表 佐藤新三郎
NPO 法人 陸前高田「みんなの家」
山中保博さま
米崎小学校仮設住宅自治会
K.S. さま
Y.E. さま

若者流出を防止！ 若者流入を目指すプロジェクト

地域支え合い情報 19号 未来をつくる若い力 特集
2014年3月20日 発行



つながりから住みたいまちへ、 未来をつくる若者たちの挑戦

Juntos vol.79 まちの魅力を見つける育てる⑩
2014年8月10日 発行



「復興マップ」最終号 施設の代表者に手渡す「若輿人の家」メンバー

岩手日報 地域 (24頁)
2014年8月30日 掲載



※新聞は、レイアウトの都合上一部切り取って掲載しています

「若輿人（わこうど）の家プロジェクト」

NHK 東北発☆未来塾「未来への芽」
2014年11月17日 放送



古民家 若者集う場に 看板設置しPR

岩手日報 地域 (30頁)
2014年11月22日 掲載



※新聞は、レイアウトの都合上一部切り取って掲載しています

メディア掲載



この報告書はすべて 学生が制作しました

主たる担当

文：井手菜摘 / 久保玲奈 / 山本和希

デザイン：鈴木紀明

補助：小川杏子 / 佐竹高祐 / 瀬川千咲子
境薫子 / 渡部花野子



団体名	一般社団法人 SAVE TAKATA 若者事業「若興人の家」
住所	〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字大隅 93-1 高田大隅つどいの丘商店街 9号
TEL	0192-47-3287
E-MAIL	wakodohouse@savetakata.org
WEB	http://wakodohouse.org
facebook	https://www.facebook.com/wakodohouse.page
twitter	https://twitter.com/wakodohouse